

町長発！『がんばるトーク』

町長 上川 元張



若桜大会マスコット

このコーナーは、文字数がいつの間にか増え、文字が小さくて読みにくいとの声をいただくようになり、今月号から丸々1ページをいただけることになりました。広いスペースに恥じぬよう、引き続き、町政にまつわる旬な話題を町民の皆さんにお届けしたいと思います。

6月15日に東部地区消防ポンプ操法大会が7年振りに町内（旧森林組合敷地内）で開催されました。操法大会とは、消防団員が日頃の訓練で身につけた消防用機械器具の操作技術を競い合う大会で、消防団の技術向上と士気の高揚を目的に毎年開催されるものです。県大会を経て行われる全国大会は「消防団の甲子園」ともいわれる一大イベントです。

当日は東部4町の各消防団及び関係者約550名が集まり、「ポンプ車操法」と「小型ポンプ操法」の2種目で競技が行われました。若桜町を代表して「ポンプ車操法」に出場した第2分団の選手6名は、町勢としては11年振りの優勝に輝き、7年振りの県大会出場を決めました。3月から週3日、夜間の集中練習を重ねてきました。卓越した個人技とチームワークで練習の成果を余すところなく発揮してくれました。県大会での活躍を期待しています。

さて、近年、災害の激甚化や頻発化が顕著であり、地域住民同士の助け合いを基本とする地域防災力の重要性が高まっています。消防団は地域防災力の要として、火災や災害時の消火・救援活動のみならず、平時

から火災予防や災害防衛活動など、町民の生命・財産を守る重要な役割を担っています。現在、町には消防団員が59名、地域ごとに4つの分団を編成し、第1分団は若桜宿内の上半分と周辺地域、第2分団は宿内の下半分と周辺地域、第3分団は池田地域、第4分団は役場職員から成ります。女性消防団員は現在3名で、防火広報や災害時の救護活動などにあたります。また、自警団等の自主防災組織が、現在町内31集落で設置されており、平時には消防器具等の点検管理、災害時には消防団が到着するまでの初期消火や住民への避難誘導等を担います。

消防団員の数は全国的に減少傾向が続いており、町でも団員確保に苦勞しています。活動に対する町民の理解を促進しつつ、待遇の改善や負担感の軽減など団員がやりがいを持って活動できる環境づくりが課題となっています。また、自主防災組織も過疎化・高齢化により、ポンプの運用など活動の継続が困難な集落も増えつつあります。

一方、専任の職員が火災・救急や救助活動などに従事する常備消防機関として、西町の国道沿いに、東部広

域行政管理組合の東部消防局八頭消防署若桜出張所が置かれています。16名の職員が所属し、消防団と役割分担しながら連携して任務にあたります。消防庁舎の老朽化に伴い、現在、隣接地で建替え工事を進めており、来年2月に竣工、4月から新庁舎で業務を開始する予定です。

私たちの生活の安全・安心は、消防に携わる方々の、昼夜を問わず、時に危険をいとわない献身的な活動によって支えられています。こうした活動や多大な貢献に対して、私たちは日頃から敬意と感謝の気持ちを持ち続けるとともに、それを時には形に表してお伝えすることが大切です。



▲優勝メンバーとともに